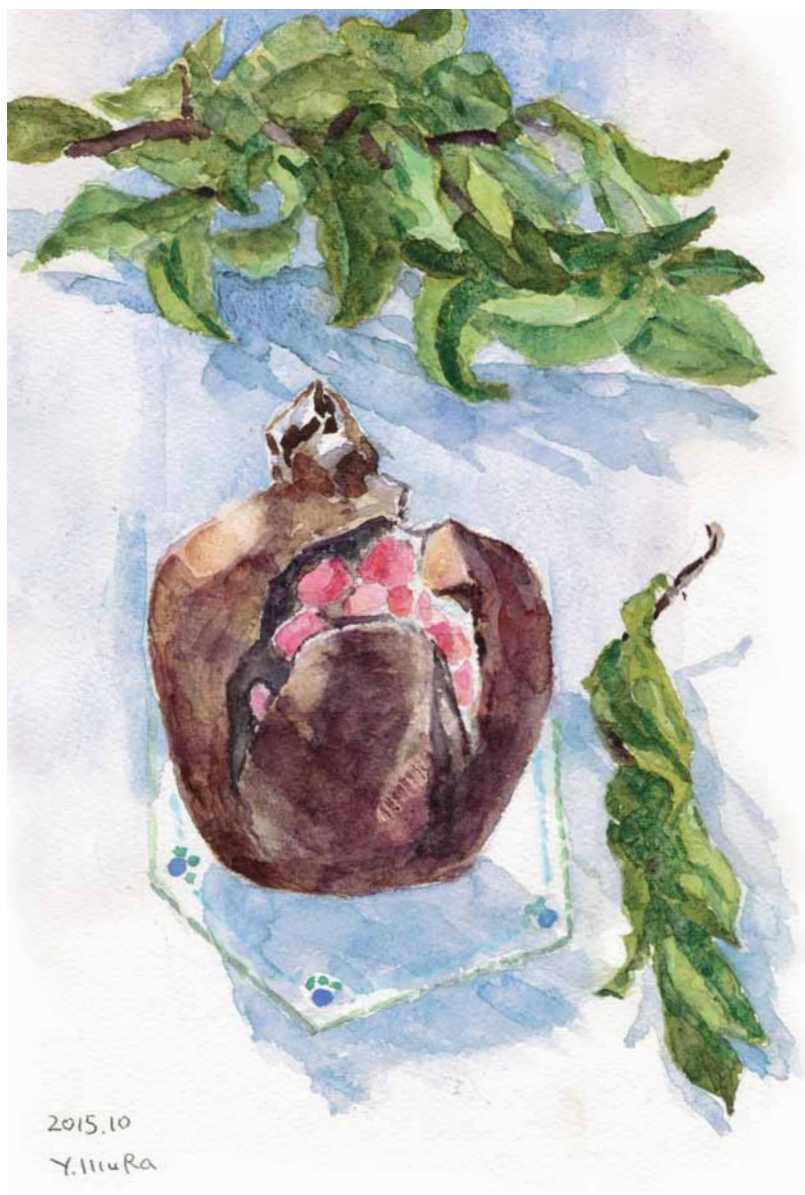


福祉にいがた

Fukushi Niigata

11月号

2015
第759号



村山 陽「柘榴」（一水会委員・上越市在住）

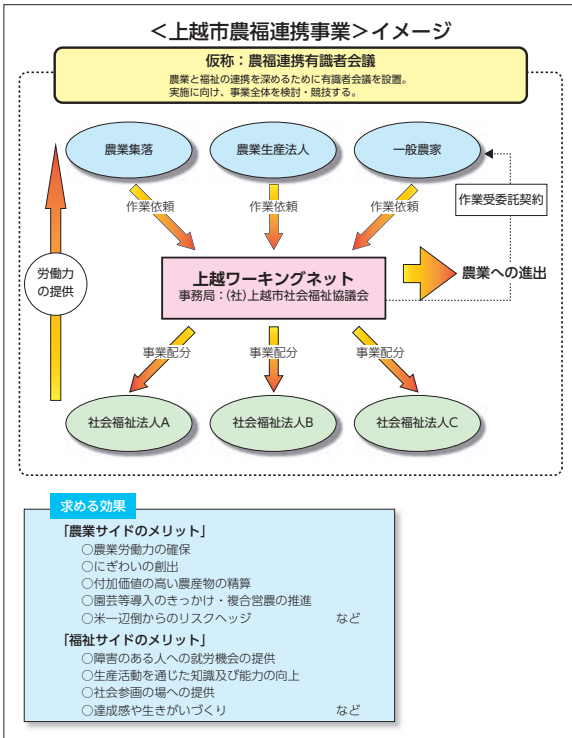
巻頭特集

CONTENTS

上越市に見る農福連携のメリットと課題
工賃アップに大きな力。通年化が発展の鍵に
(2・3面)

- 関東・東北豪雨被災地コーディネーター支援報告
- 高齢者大学と新潟医療福祉大学が学園祭で交流
- 県内3会場で成年後見制度市町村長申立推進研修会
- これからの子ども家庭福祉を考える

工賃アップに大きな力。通年化が発展の鍵



JWNは、5年前の4月に発足、現在上越、妙高両市にある15の福祉施設が加盟しています。組織の目標は第1に「利用者の工賃

アップ」にあります。「一つの作業所では出来ないことも、複数を手をつなぐことで大きな仕事を取れます。各施設は、得意とす

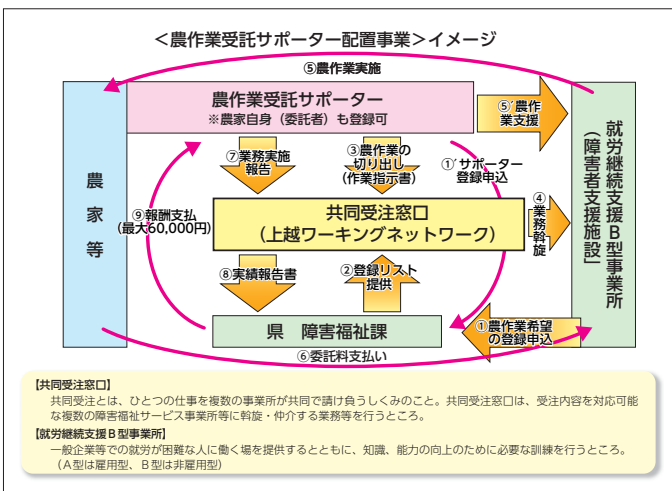
もみ殻の袋詰め、2施設で5千個請け負う

爽やかな秋晴れに恵まれた9月末日、上越市の(有)グリーンファーム清里に、もみ殻の袋詰め作業に笑顔で取り組む障害者の姿がありました。今、県内で活発になってきた「農福連携」の「コマ」です。新潟県は本年度「農作業受託サポーター事業」を開始しましたし、新潟市などの自治体もさまざまな事業を展開しています。その中の一つ

に、上越市の「農福連携障害者就労支援モデル事業」があります。県と上越市、二つのルートからの仕事を受託している上越ワーキングネットワーク(略称JWN)の望月正代表(かなやの里ワークス課長補佐)に農福連携のメリットと今後に向けた課題についてうかがいました。

る分野を持っています。それぞれの能力を生かせば、かなりの仕事が可能になり

「農業分野に福祉の皆さんも参入してほしい」というものでした。この話に乗り気になったのが県であり上越市の村山市長でした。



県の事業も市のモデル事業も、基本的には同じです。違いは、市が直接JWNに対して仕事を依頼するのに対し、県は直接やらせず受託サポーターに仲介してもらおうことです。JWNは受託サポーターの紹介自体頼まれましたが、「農業と福祉

ます。これまでに、定期的に交換が必要な都市ガスのメーターを分解する仕事や、パソコンなどの電子部品の分解などの仕事を受けてきました。こうした中で持ち上がったのが「農福連携」の話です。提案したのは農林水産省。「農業分野に福祉の皆さんも参入してほしい」というものでした。この話に乗り気になったのが県であり上越市の村山市長でした。

施設の両方を知っている人はなかなかおらず」人選には苦労したそうです。

今年請け負った大きな事業は、もみ殻をビニール袋に詰める仕事です。この仕事は昨年も独自に受託しました。水田改良工事で暗渠配水管を設置するとき、疎水材として使用するものです。15^キ詰め袋が上越地域で45万個必要でしたが、JWNはその内の4千袋を請け負いました。モデル事業に移行した今年は、かなやの里と板倉ふれあい工房で、15万個必要な内の3分の1、5千袋を受注しました。

作業を取材した日は、かなやの里課長補佐の望月さんと利用者4人がグリーンファーム清里を訪れました。細かい塵が舞うため、口元にはマスク、目にはゴーグルという重装備です。大型機械で脱穀されたもみ殻を袋に詰め、野外に積みます。黙々と手際よく作業は進み、前回から残っ

ていた袋の山は、一段と大きくなっていました。

その他では、大豆圃場の除草をしたり、田の石拾いに従事したりもしました。田は土が軟らかいので石は地中深く埋まっています。畑に使うとその石が表面に浮かび上がってくるのだからです。再度田に戻すには、その石を始末する作業が必要になるのです。

社会の評価がやる気促す

この農福連携、メリットは多いと望月さんは言います。「効率がいい」のです。短期に10万、20万というお



イトーヨーカ堂での販売会



手際よく進むもみ殻の袋詰め

金が入り、利用者の時給は700円近くにもなります。JWNが目指す工賃アップの一助になりました。また、利用者にとっては、社会参加を体感できる時もあります。利用者の仕事は丁寧で、一生懸命です。当然、周りから「やるな」という評価を受けます。それは利用者にとってうれしきことであり、やる気を促すことにもなります。さらには、新たな仕事を開拓することにもつながります。

グリーンファーム清里の代表取締役・保坂一八さんも彼らの仕事を認める一人です。上越市議会が視察に来たときには、議会も後押しするよう強く訴えたそうです。

一方で課題もあります。最も大きな課題は、一年を通しての仕事がないことです。農閑期の冬をどうするか、農福連携が成功するかどうかの鍵を握っているかもしれません。JWN加盟15施設の中で手を挙げたのは6施設だけだったのは、その辺りに理由があったとも考えられます。もっとも、障害の度合いによっては「出来ない仕事」もあるのです。

また人手確保の問題もあります。福祉施設は、それぞれ工夫を凝らして取り組んでいます。スケジュールが出来上がっているところに、不定期の仕事が飛び込んできても、「既存の仕事がないがしろにするわけにはいきません」。人の遣り

繰りはなかなか大変なので

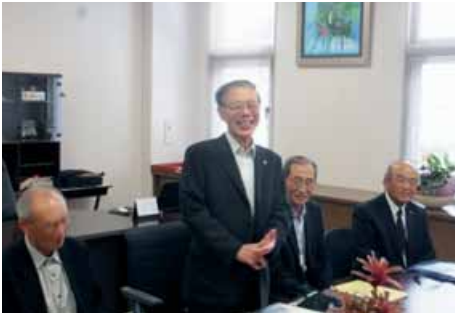
施設の仕事を積極アピール

JWNは農福連携以前から独自の仕事に取り組んでいます。贈答品の袋詰め、箱折り、部品の組み立て作業、文書封入封緘など屋内作業のほか、屋外の仕事も引き受けています。その際「障害者の施設だから、という甘えのない、丁寧な仕事を心掛けています」。

また、各施設の製品を持ち寄っての販売会も活発に開いています。イトーヨーカ堂のフロアを借りたり、市場や文化祭などに店舗したり、毎月のように販売会を行い、積極的に外に向けてアピールしています。先日は、市商工会議所に outgoing 協力を働きかけたそうです。それまでの活動ぶりが生きたのか、「会員に紹介するから、チラシを持ってくるよう」言われたそうです。

石上・新潟県高齢者大学長と行く「伍桃祭」と医療福祉大キャンパス
活気に触れ、学ぶ心一層高まる

10月11日、新潟県高齢者大学（石上和男学長）の受講生13人が「伍桃祭」と「オープンキャンパス」開催中の新潟医療福祉大学（山本学学長）を訪れ、山本学長と懇談したり、学科体験プログラムに参加したりするなど交流を深めました。4月に就任された石上・高齢者大学長は医療福祉大教授でもあり、就任当初から「シニア世代と若者の力を合わせて新しい地域力を



懇談で語る山本学長



健康スポーツ学科にて。体組成の測定

生み出したい」という構想を持っていくことから、今回の交流が実現しました。両大学では、今後さらに交流を深めていく予定です。石上学長に引率された受講生は、まず山本学長を訪問して懇談しました。「高齢者大学に入学し、自分自身が変わった」「入学しなければ素敵な仲間と会う機会がなかった」「10月で卒業するのはもったいない。もっと学習したい」など、

自己紹介を兼ねてそれぞれの思いを語りました。

これに対し山本学長は、「教養（今日、用があること）と教育（今日、行くところがあること）を身につけることとはいくつになっても大切」と日頃大切にしている言葉を披露し、「オープンキャンパスで本学を見て、聞いて、触れて、感じてほしい。今年の伍桃祭のテーマは『TUTTI』。イタリア語で、みんな一緒に、



作業療法学科では、革細工体験

という意味が込められている」と話しました。

また受講生は、医療福祉大の特徴を聞き、夢を持って入学する学生に全力でサポートする大学の姿勢に感銘を受けた様子。「今の学生はとても良い環境で学習している」「シニア世代の受講枠を作ってもらい、そこで学びたい」などと口々に語っていました。

学科体験では、大学生から日頃学んでいることを説明してもらい、研究機材を見たり、使ってみたりしました。学生や教員に熱心に質問、今までのしたことのないことを体験できたことで



理学療法学科での筋力測定機材見学

受講生は大満足。大学生に励ましの言葉をかけるなど交流も深め、若い力に刺激を受けた様子でした。

また、全国大会で賞を取ったダンス部の発表を見学するなど、青春ライフをも満喫したようでした。今回が初めての企画。受講生には「このような機会がなければ大学に来ることはできなかった」「参加してよかった」と好評でした。「高齢者大学卒業後、もっと学びの場がほしい」といった声も多く、一層学びへの意欲や関心が高まる絶好の機会となりました。



学長室で記念の一枚

常総市災害ボランティアセンター支援報告

地域福祉課長 井浦 佐敏

台風18号は、関東北部と東北に大きな被害をもたらしました。新潟県社会福祉協議会は、茨城県社協からの要請を受け、連休中の9月21日から25日までの5日間、最も被害の大きかった茨城県常総市に職員を派遣、ボランティアセンターの運営を支援してきました。その状況を時間を追って報告します。

台風18号は9月9日遅くに東海地方に上陸、10日朝には日本海に抜けました。経験からすると、台風の通過後は一安心といったところだが今回は様相がまるで違いました。

初めて聞く「線状降雨帯」による大雨状態が10日から11日にかけて栃木、茨城、福島、宮城各県に居座り、特に栃木、茨城両県に甚大な被害をもたらしました。時間の経過と共に、被害の甚大さが明らかになりました。栃木県小山市が床上浸水932世帯、床下浸水593世帯、茨城県常総市では床上浸水4,400世帯、床下浸水6,600世

帯というものでした。

14日になり、関東ブロック災害相互支援Bブロック

幹事県の長野県社協から、茨城県社協の要請により常総市災害ボランティアセンター（以下「ボラセン」）を支援する旨連絡が入りました。派遣は、9月15日から10月22日まで約1か月間。本会には第3クール（9月21日～25日の5日間）の派遣要請でした。連休中であり、6人が2班に分かれての途中交替制で対応することになりました。

先発隊（第1班）3人は、事前に状況を確認するため日曜日の20日出発、同日午後と21日午前中に現地を

見た後、引き継ぎのため午後1時30分ボラセンに合流しました。

A、B両ブロックの社協職員合同で引き継ぎを受け、その後、総務班とニーズ班に分かれ支援活動を開始しました。総務班担当は、翌22日から急遽現地コーディネーター（団体ボランティアの活動指示）に加わることになりました。

また22日には、新潟県派遣のボランティアバスが現地入り、平地区で43人が活動しました。

被害は、鬼怒川が破堤した石下地区から常総市役所がある水海道地区まで南北約20kmに及んでいます。破

堤及び越水した上流部は、木材やコンテナなどの大型がれきが道路の随所に見られ、激しい濁流が押し寄せたことが窺えます。また新潟県のボランティアが入った下流部の水海道方面では浸水水位が高く、軒並み1階部分が水没している状況で、作業後のボランティアは全身泥まみれ状態でした。

23日午後には第2班が合流、総務班、ニーズ班、現地コーディネーターに分かれ引き継ぎました。

24日、総務班は「災害ボランティア活動支援プロ



ジェクト会議」の派遣職員と協力してボラセン運営のサポートや助言を行い、ニーズ班はこれまでに対応を終了したケースについて、電話で被災者の状況確認を実施しました。また、現地コーディネーターは担当地区のボランティア活動をサポートしました。

翌25日は雨の確率が高く、午後4時頃ボランティア活動中止が決定しました。そのため25日は、土日に向けたボランティア受け入れ準備とこれまでの課題について各班で協議・対応を行い、次クールに引き継ぎました。

被害地域が広域であったため、この後も取り敢えず11月15日まではボラセンの活動が行われることとなりました。このため新潟県社協は、10月12日から16日までの5日間、長岡市社協と柏崎市社協の応援を得て支援を行い、さらに11月8日から2人派遣する予定です。

Dr.ヤマゴンの 健やか 通信

その十二

今回は、ノルディック・ウォークの紹介です。カタカナの名前ですが、難しくありません。ポール（スキーに使うストックで構いません）を手に持ち、地面につきながら歩くだけです。普通に歩くのと比べ、

体重が足だけにかかるのを防ぐという感じでしょう。か。肩や首のあたりの筋肉もほどほどに使いますので、より全身運動に近くなります。

もともと、スキーの長距離選手が夏場のトレーニングのために始めたときからありますが、現在はそれだけでなく、子どもからお年寄りまで楽しめるスポーツになっています。以前、あるイベントで私も歩いたことがあります（写真）。場

ノルディック・ウォーク

所はスキー場のゲレンデ。急な坂になっていきますので、ただ歩いて登るには大変です。スキー場からお借りしたストックを両手に、指導者の号令のもと、山の

上まで歩きました。映っている指導者は、三浦豪太さん、80歳でエベレスト登頂に成功したスキーヤー、三浦雄一郎の息子さんです。「みんな

実はこの時、足が肉離れを起こしていて、その回復の途中だったので、全く問題なく歩くことができ、おかげで数日後の馬拉ソンにも出場できました。ちなみに写真の左手前に

で歩けば怖くない」どころか、本当に楽しく時間を過ごすことができました。



冬になると雪が多く降る新潟県ですので、秋のうちにいっぱい動いておきたいものです。県内各地で、ノルディック・ウォークに限らず、様々なイベントや教室なども開かれていきますので、こちらのリンクもご覧ください。http://www.aruko-daisakusen.com/

新潟西警察署員

80歳の大変さ身をもって知る 安全対策に役立てようと高齢者擬似体験

9月初旬、新潟ユニゾンプラザ（新潟市中央区上所2）で、新潟西署員による高齢者擬似体験が行われました。高齢者の安全対策を考えるには、彼らの状況や気持ちを知る必要があるとして実施したものです。生活安

全課3人、交通課4人、それに新潟日報記者1人の計8人が体験しました。

8人が挑んだのは、「あつ」という間に80歳」体験。まずは、新潟県介護福祉士会職員の指示に従い、80歳の体への変身です。



サポーターで膝、肘を固定し、足首や手首には重りが着けられます。着込んだチョッキもまた重り入りで、素早い動きが制限され

ました。

その上手袋をはめることで指先の細かい動きを失い、耳栓で聞こえを悪くし、目には白内障の状態を再現するゴーグルを着け、80歳の体になりました。

二人ひと組になり、一人は80歳、もう一人はサポーター役となって、いざ体験。伝票を書き、新聞を眺め（読めない！の声あり）、小豆を箸でつまみ、小さなボタ

ンを外したりはめたりという日常生活では当たり前の動作にも四苦八苦の様子。階段登りや外へ出での歩

行体験Ⅱ写真Ⅱは、さすが鍛えた体のおかげか、思いの外スムーズだったが、自動販売機でのコイン挿入など細かい動作が不便だったようです。一通りの体験を終え、装具を外したときの開放感に、その大変さが表れていました。

県内3会場で成年後見制度市町村長申立推進研修会

踏み出そう「0」から「1」へ 第一歩

認知症高齢者や知的・精神障害者など判断能力が不十分な方の中には、身近に頼れる親族や支援者がおらず、スムーズな成年後見制度利用が困難な方がいます。このため親族などに代わって後見人等の選任を申



上越会場での研修会

し立てる「市町村長申立」の普及促進を目的にした研修会が県内3会場で開催されました。申立件数を0から1にすることの難しさと、「1」へ踏み出すことが誰もが安全・安心に暮らせる地域づくりの要であることを再認識する研修会となりました。

今年で2年目の研修会は、下越会場を皮切りに、中越・上越の3会場で開催、昨年を大幅に上回る約260人の福祉関係者が集まりました。

冒頭で新潟県社会福祉協議会が、後見申立の状況や後見人等の選任状況、現在の制度利用者について全国と新潟県の比較、各市町村社協における法人後見事業、市民後見人の養成の取組状況など、県内における

成年後見制度の概況を説明しました。

続いて弁護士による、成年後見制度に関する基本や市町村長申立の意義についての講演が行われました。上越会場では、糸魚川さばう法律事務所の小出薫弁護士が事例等を用いながら、申立のポイントについて解説しました。

また、市長申立を行った経験のある糸魚川市と五泉市の担当者が実践報告、申立のプロセスや制度活用後の効果等について発表しました。両市とも強調していたのは、「日ごろの関係機関とのネットワークづくりと連携の重要性」。申立に至るまでの苦労や葛藤、失敗談など試行錯誤を重ねた様子が語られ、参加者の印象に強く残ったようです。

2015年版「新潟県のふくし」発行



新潟県社会福祉協議会が毎年10月に発行している「データブック 新潟県のふくし」2015年版が完成しました。国・新潟県・県内市町村の福祉関係データをグラフ化したものです。今回の「特別編」は福祉の人材に関わるデータを掲載しました。参考資料としてご利用ください。

基礎データとしては、国や県が調査した数値を使用しています。速報値なども活用して、年次推移や全国と本県の比較、市町村の現状など可能な限り掲載するとともに、分かりやすさを基準に編集しました。

A4版、43ページ。2千

部印刷。その内1、100部を27、28の両日新潟市で開かれた第65回県民福祉大会の資料として配布、300部余を市町村社会福祉協議会や図書館などに寄贈しました。残部がまだありますので、希望者にお分けいたします。問い合わせは、県社協企画広報課 ☎025(281)5584 へ。

またデータブックは、県社協のホームページにも掲載しています。

寄付ありがとうございました

(敬称略)

日付	寄付者	寄付額
9月10日	新潟県 税理士 協同組合	100,000円

加入施設・加入者数とも増加傾向

26年度の県民間社会福祉職員退職積立基金制度

新潟県民間社会福祉職員退職積立基金制度の平成26年度実績がまとまりました。

も年々増加する傾向にあり、26年度末時点での加入者数は2万935人、男女別

最も多く33.3%となり、おり、10年未満の加入者が全体の63.7%を占めています。

同制度は、県社協会員の施設・団体に勤務する職員が退職する際に年金もしくは一時金を支給して、生活の安定に寄与することを目的とし運営しています

が、加入施設・加入者数と

平成26年度における給付状況は、退職年金が計15,101,147円、退職一時金を1,477人に計44,5702,772円支給しました。

女性72.2%となっており、年齢別では、30〜40歳代が27.9%と最も多くなっています。加入期間別では、1年以上5年未満が

最も多く33.3%となり、おり、10年未満の加入者が全体の63.7%を占めています。

平成26年度における給付状況は、退職年金が計15,101,147円、退職一時金を1,477人に計44,5702,772円支給しました。

1 加入施設・加入者の状況

	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末
加入施設・団体数	549	565	579
加入者数	19,522	19,531	20,935

※届出の遅れ等により、数値が変動することがあります。

2 年齢・男女別加入者状況

年齢	男性	女性	合計	構成比
20歳未満	22	68	90	0.4%
20歳以上30歳未満	1,319	3,074	4,393	21.0%
30歳以上40歳未満	1,983	3,853	5,836	27.9%
40歳以上50歳未満	1,310	3,779	5,089	24.3%
50歳以上60歳未満	800	3,618	4,418	21.1%
60歳以上	386	723	1,109	5.3%
合計	5,820	15,115	20,935	100.0%

3 加入期間・男女別加入者状況

期間	男性	女性	合計	構成比
1年未満	119	354	473	2.3%
1年以上5年未満	1,925	5,044	6,969	33.3%
5年以上10年未満	1,605	4,281	5,886	28.1%
10年以上15年未満	847	2,335	3,182	15.2%
15年以上20年未満	677	1,583	2,260	10.8%
20年以上25年未満	357	900	1,257	6.0%
25年以上	290	618	908	4.3%
合計	5,820	15,115	20,935	100.0%

4 給付の状況

(単位：円/人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
退職者給付総額	389,505,909	410,961,181	460,803,919
一時金給付総額	378,397,557	398,522,827	445,702,772
一時金給付者数	1,453	1,372	1,477
一時金平均額	260,425	290,468	301,762
年金給付総額	11,108,352	12,438,354	15,101,147
年金延給付者数	330	358	414
年金給付平均月額	11,221	11,581	12,159

長岡市で平成27年度福祉用具・住宅改修研修会 講義と実技で失敗避けるポイント学ぶ



的な暮らしを可能な限り維持することができません。

しかし知識不足は、失敗を招く恐れもあります。無駄を回避するポイントとして講師が挙げたのは、「住宅の中の暮らしを、きちんと検討すること」です。利用者のニーズ、生活動線、住環境、身体機能などを把握することが第一歩になります。大工さんをはじめ、理学療法士、作業療法士、家族など多くの人と話し合い情報を共有することが重要です。

これは、補助金申請に必要な「理由書」作成の基礎でもあります。受講生は、その上で業者の選定方法や見積書の見方などの実務を学び、改修図面を引いてみたり、理由書を作成したり、「改修」に必要な知識を身につけていきました。

高齢者の介護に携わる新人介護支援専門員を対象にした平成27年度福祉用具・住宅改修研修会(中越会場)が、3回シリーズ(9月下旬)で行われました。会場のハイブ長岡(長岡市千秋3)には、40人が参加、講義と演習で住宅改修や補助金申請のポイントなどを学びました。今月から12月にかけて、新潟ユニゾンプラザで下越会場の講座が行われます。

歳を重ね身体機能が衰えても、住宅を改修することで、人間らしく豊かで主体的な暮らしを可能な限り維持することができません。

福祉の店 味わい散歩

焙煎コーヒー温

地域活動支援センター 焙煎コーヒー温

(新潟市中央区下大川前通4ノ町2230)

エスカイア大川前プラザ105

◇10時～16時

◇日・月・祝日休み

◇TEL 025(225) 2008



香り高く、心とモブレンドコーヒー

新潟市の生涯学習センター「クロスパル新潟」に、小さいながら味わい深い喫茶室がある。「Cafe温」(11時～16時)という。その場で豆をひいていれるコーヒーは香り高く、しみじみと心にしみる。

先マンションにある「焙煎コーヒー温」。「心の病を持ちながら、市民として地域で働き、当たり前前に暮らす」ことを願う人たちが心を寄せ合って働いている。コロンビア、ブラジル、モカ、キリマンジャロ…、仕入れた生豆を焙煎し、酸味や苦味をあんばい良くブレンドして販売する。



スッキリ味で食後の一杯に向く「やすらぎブレンド」(350円)、深入りでコクがありコーヒータイム

にお勧めの「琥珀ブレンド」(350円)、そして酸味が好きな方には「温ブレンド」(400円)。自慢の調合で、様々なテイストを生み出す。さて、あなたのお好みは？

お求めは、温のほか、「Cafe温」やユニゾンプラザ内のパレット、ネクスト21の「まちなかほっとショップ」などで。今年11月15日に新潟市の朱鷺メッセで開かれる「福祉・介護・健康フェア2015」や公民館文化祭にも毎年出店して喜ばれている。冷めない距離(おおよそ30分以内がめど)なら出前もOKだ。

福祉NEWS

2015年9月11日～10月10日

■100歳以上初めて6万人超す 新潟県は1500人

全国の100歳以上の高齢者は過去最多の6万1,568人に上ることが9月11日、敬老の日を前にした厚生労働省の調査でわかった。6万人を超えたのは1963年の調査開始以来初めてで、女性が87.3%を占めた。新潟県の100歳以上の高齢者は男性197人、女性1,303人で合わせて1,500人だった。

■関東・東北豪雨 本県などから 支援の輪

関東・東北豪雨で大きな被害が出た茨城県常総市に、新潟県などから支援の輪が広がった。市災害ボランティアセンターでは、新潟県社会福祉協議会の職員や災害支援に取り組む団体がセンター業務を支えたほ

か、県内各地からボランティアバスが続々と駆けつけた。

■全国に自殺対策拠点

自殺防止の推進に向け、厚生労働省が2016年度以降、すべての都道府県と政令指定都市に「地域自殺対策推進センター(仮称)」を設置することが、9月26日にわかった。専門家による相談体制や情報提供の充実を図る。既に新潟県や新潟市を含む31の自治体には同様の「地域自殺予防情報センター」があるが、これを拡充強化する。

■社会福祉法改正案継続審議に

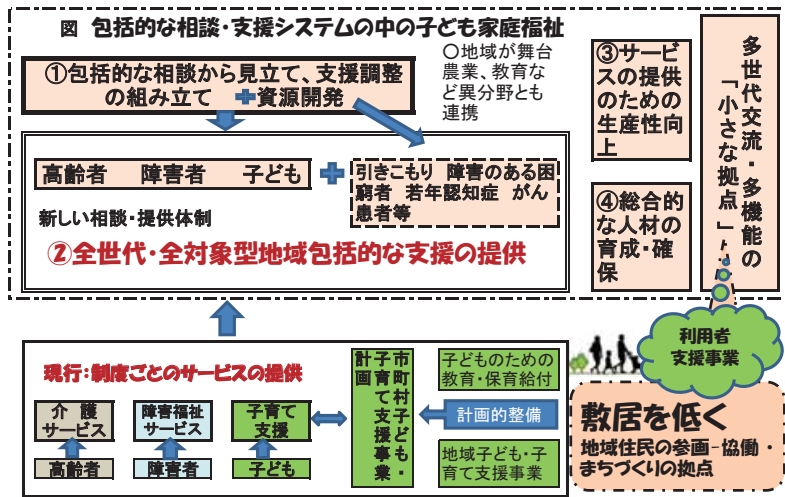
第189通常国会は9月27日、閉幕した。会期を戦後最長となる95日間延長したが、安保法案成立が響き、社会福祉法人改革を柱とし

た社会福祉法改正案は継続審議となった。法案は介護福祉士の資格取得方法の見直しも盛り込んでいる。現行法は16年度の介護福祉士養成施設卒業生から国家試験を課すことにしているが、法案はそれを猶予しようというもの。法案が成立しないと猶予できず大混乱に陥る恐れがあります。

■2014年度の児童虐待、最悪の 8.8万人に

全国の児童相談所が2014年度に対応した児童虐待の件数は、前年度比20.5%増の8万8,931件(速報値)で過去最多を更新したことが8日、厚生労働省のまとめで分かった。集計開始以来24年連続の増加で、初めて8万件を突破した。

新潟県児童家庭課によると、県内6児童相談所が対応した件数は、1,227件で過去最多。前年度比328件増、増加率は1.36倍だった。



新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン (H27.9.17厚生労働省) をもとに改変・加筆

敷居の低い「小さな拠点」の大きな役割

これからの子ども家庭福祉を考える

社会福祉学部特任教授

鈴木 昭

新潟医療福祉大学



(すずき・あきら)

- 新潟医療福祉大学社会福祉学部 特任教授
- 新潟市社会福祉審議会委員 新潟市子ども・子育て会議委員
- 所属学会 日本社会福祉学会 日本子ども虐待防止学会 日本子ども家庭福祉学会等
- 専門分野 子ども家庭福祉 ソーシャルワーク コミュニティ福祉心理学
- ※研究分野 子ども虐待のないまちづくり 相談行動とソーシャルワーク 障害者の自立支援

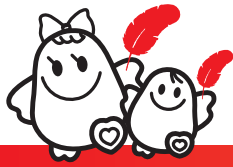
子ども家庭福祉は、子育て支援、要保護児童対策、母子家庭支援策等多岐にわたっています。ここでは、サービスを利用・提供する入り口としての相談について考えてみたいと思います。

ニーズの多様化、抱える困難の複合化、必要な支援の複雑化が顕在化してきていることから、「新たな福祉サービスのシステム等のあり方検討プロジェクトチーム・幹事会」を設置し、議論の糸口として4つの改革の方向を提示しています（以下、改革ビジョンという。図参照）。福祉の基礎構造改革以来の大きな変化をもたらす相談イノベーションです。

これまで福祉サービスは、高齢、障害、子ども等その対象者ごとに発展してきましたが、子ども虐待問題にみられるように複合化する課題に単独の機関によるアプローチでは、十分に対応できない事態が起こっています。改革ビジョンでは①地域における包括的な相談体制を構築し、②全世代・全対象型の分野横断的かつ包括的サービスを提供する。そして③サービスを提示していくために生産性の向上を図り、④総合力を発揮できる人材を確保し、支えあい社会の実現を目指すとしています。ソーシャルワークが到達したジェネラリストアプローチの視点です。

人は制度ごとの縦割りに生活課題をかかえ生きているわけではありません。新潟県ではかねて総合相談方式をとってきており、たとえば中央福祉相談センターでは、子ども、女性、障害（知的・身体）とその対象や相談内容を分断することなく来談者の直面している課題に向き合う総合的・包括的な相談を進めています。新潟福祉の強みです。

改革ビジョンの目指す相談支援の仕組みは、高齢者地域包括支援システムの拡大強化版ともいえます。子ども家庭福祉相談では、すでにこのような考え方に沿って、新制度において利用者支援事業が始まっています。そのねらいの一つは、要支援要素を多く抱えながら相談・サービスをためらいがちな人たちが相談に向ききかけづくりです。このためには、相談の場所（や機会）の敷居を低くしておくことが肝要ですが、改革ビジョンが掲げた多世代交流・多機能の「小さな拠点」が、その大きな役割を担っていくものと考えています。



Information Red Feather 赤い羽根情報

Neigiccocoを親善大使に任命 協力者に感謝状と募金箱付託

九月二十五日新潟ユニゾンプラザでNeigiccoco（ねぎっこ）への赤い羽根親善大使の任命式が行われ任命書を手渡ししました。Neigiccocoから「共同募金に協力出来うれいです。私たちと一緒にみんなに優しい新潟を作りましょう。」とメッセージをいただきました。

引き続き今年度の募金運動協力者に感謝状を贈り募金箱の付託を行いました。



親善大使任命式

「赤い羽根空の第一便」 メディアアシップで伝達式 —朝早くから募金好調—

十月一日新潟市万代の新潟日報メディアアシップで「赤い羽根空の第一便」伝達式を実施しました。司会進行をBSN新潟放送の石塚かおりアナウンサーに

努めていただきました。

伝達式では、全日空機第一便で空輸された厚生労働大臣・中央共同募金会長メッセーじと赤い羽根を、キャビンアテンダントとグラウンドスタッフから県知事、新潟市長、県共同募金会長、新潟市共同募金委員長に手渡しました。



空の第一便伝達式

その後、各テレビ局代表と新潟県社会福祉協議会長、赤い羽根親善大使Neigiccoco

県庁職域募金 若い力も活躍

赤い羽根共同募金初日、新潟県庁に募金を呼び掛ける若い声が響きました。

募金活動に取り組んだのは、新潟医療福祉大学生38人です。県庁の職域募金に協力している新潟県社会福祉協議会と同大学が包括連携協定を結んでいる縁で実現したものです。元気あふれる若者の呼び掛けに、県庁職員から多くの募金が寄せられました。



県庁での募金活動



募金活動

の三人も加わり募金活動を行いました。朝早くからNeigiccocoファンも多く訪れ、募金に協力していただきました。ありがとうございました。



改造も
します。

人にやさしい車

福祉車両のこまつが新潟より全国へお届けします。

福祉車両専門店

買いたい!

福祉車両の
新車・中古車販売!
常時展示中!

売りたい!

福祉車両の買取
ご相談ください。

直したい!

自社整備工場完備!
福祉車両の代車無料。



福祉車両のこまつ
株式会社 オートモティブコマツ
新潟県三条市小古瀬31
http://294komatsu.com
TEL 0256 (45) 3000

福祉の現場

神田 慎二さん

(医療法人白美会 介護老人保健施設さくら苑介護副主任・介護福祉士)

No.7



福祉の世界に入ったのは12年前、21歳のとき。介護や生活相談員などを経験、最近は特養や小規模多機能施設の立ち上げなど事務方の仕事に関わっていた。しかし、「やっぱり介護の現場が好きなんだ」と、さくら苑に移ってきた。4年前のことだった。

「基本的に、お年寄りと話をするのが好き」という。「性格的にのんびりしているから、波長が合うんでしょうね、きっと」。

普段の仕事のほか、「研究にも力を入れている」。歯科医と組んで「口からご飯を食べられるようにするには、ど

心地よく、好きな現場で、介護の研究と人間観察にいそしむ。

うすればいいか？」を考えた。フランス人が開発した「ユマニチュード」を勉強したりした。これは、認知症の人のためのケア技法。「見る」「話しかける」「触れる」「立つ」の四つを基本とし、「魔法のような効き目がある、とも言われている」という。

県老人保健施設大会に論文を発表、2年連続で学術奨励賞を受賞した。あくまで「現場で生かしたい。他の施設でも採り入れてもらえればありがたい」との思いからだった。

夜勤も当然ある。「体力的にきついけど、面白い」。「昼間と違った姿が見られるから」。両方見ることで「利用者」を把握できるし、今後の対応が考えられるからという。

人間観察も介護の歩なのだろう。ただ「利用者は、よくこつちを見ています。それを感じる時、身の引き締まる思いがします」。

今「自分は、人に恵まれていると思っている」。困ったことがあっても、助けてくれる仲間がいる。「それが、すごく心地いいのです」。

新潟ユニゾンプラザ ライブラリー NEWS



「ペコロスの母の玉手箱」

◆著者：岡野 雄一
◆発行：朝日新聞出版



【内容】

長崎を舞台に、認知症で施設に暮らす91歳の母の「今」と「昔」を、64歳の息子がどこまでも優しく切なく漫画で描く。ベストセラー『ペコロスの母に会いに行く』の作者の第2弾。



「ペコロスの母」に学ぶポケテ幸せな生き方

◆著者：岡野 雄一
◆発行：小学館新書



【内容】

『ペコロスの母に会いに行く』の著者が勧める、認知症との付き合い方。認知症を過度に恐れ、「予防法」や「治療法」ばかりが取り上げられるが、著者はこう言う。「忘れることは悪いことばかりじゃない。母親を介護した経験から、いい思い出が残る」「本来の自分に戻れる」「穏や

かに最期を迎えられる」といった、これまで語られてこなかった認知症のポジティブな側面を紹介。その上で、認知症の人やその家族に対して、「認知症は病気じゃない」「年取ったらボケるのは当たり前」「ボケをネタにすればいい」など、明るい認知症との付き合い方を伝授する。

問い合わせ

新潟県社会福祉協議会 新潟ユニゾンプラザ図書情報ルーム ☎025-281-5514

この機関誌は、
赤い羽根共同募金の
助成を受け発行しています。



発行所／社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上2-2-2ユニゾンプラザ
☎ 025-281-5520
発行人／土屋 良治
定 価／5円（会員の購読料は会費に含む）

福祉にいがた
平成27年11月1日発行（毎月1日発行）
昭和27年9月16日 第三種郵便物認可
印刷／島津印刷㈱